

明日への扉

No.3

大隅には安全・安心な

素材があふれています!!



Tania Kadokura
門倉 多仁亜さん



2月20日に「魅力たっぷり・おおすすめ」と題しての講演会をリナシティかのやで開催。門倉多仁亜さんの講演を聴きたい女性を中心に、大勢の人が大隅から集まりました。

料理研究家。父：日本人、母：ドイツ人。子ども時代を日本、ドイツ、アメリカで過ごす。イギリスの学校で料理とお菓子を学び、帰国後に料理関係の仕事をはじめ。2009年に夫の実家のある田崎町に家を建築。田舎暮らしを楽しんでいる。著書多数（48歳）

料理研究家としてテレビやラジオ、新聞、雑誌等でおなじみの門倉多仁亜さんは、大学卒業後に証券会社で6年間、欧州株の営業をした後、ご主人（鹿屋市出身）のロンドン留学を機に退職。幼い頃から興味があった料理とお菓子を学ぶため名門料理学校のル・コルド・ブルーへ入学しました。本格的に料理とお菓子を学び、現在では関東地方を中心に料理教室を開くほかテレビや雑誌などでドイツのライフスタイルを紹介するなど、多岐にわたり活躍されています。

都会育ちの門倉さんにとって、鹿屋での生活は初めての田舎暮らし。結婚当初は、味噌作り、団子作り、お盆の準備などで年2・3回、1人で帰省していたそうです。そんなある日、義理の母と一緒にテレビの料理番組を見ていた時、潤沢に並んだ食材を見ながら「この人はこんなに沢山の種類の野菜が作れるんだね」の一言を聞いて料理に対する考え方に変化が生じました。都会暮らしの門倉さんにとつての料理とは、それまでレシピ本に書いてあるものを買って揃えて作ることでしたが、その出来事からは「本来、自分の畑にあるものを、いかに美味しく食べるのが料理」と思うようになったそうです。

「レストランで最高級の料理を出すことを魅力に感じる人もいますが、ドイツの祖母と鹿屋の義理の母が作る料理が一番美味しい」と感じていた門倉さん。今後は、自分と縁の深いドイツと鹿屋の料理を作っていきたいとのこと。

「鹿屋へは毎月帰ります。毎回、何か新しい発見がある気がして、本当に楽しみ」と月1回の田舎暮らしを楽しんでおり、また鹿屋・大隅の魅力についても「素材が何でもあることが本当にすごい。肉、魚、どれも美味しいですし、野菜も季節の走りの物が沢山あります。東京から見たら、羨ましい限りの地域です。また、大隅産の食材は安全・安心ですが、これは当たり前ではなく、とても素敵で特別なことなんです」と話されました。

田崎町の自宅も、県内にある色々な洋館を見てから建てたそうです。「ドイツの家は町並みの中にあります。一軒だけ目立つのは一番良くありません。ですから、外は景色に溶け込む和風。中は生活に無理の無いよう洋風という組み合わせ。気に入ってますよ」と素敵な笑顔で話されました。

自然体で飾らないライフスタイルの好きな門倉多仁亜さん。これからの活躍が益々楽しみです。